

## 気候変動とインフレ、そしてポンド

珍しいことに、先週から今週にかけて BOE (英国の中央銀行)の二人の総裁が注目を浴びた。一人は前総裁のカーニー、もう一人は現総裁のベイリーだ。

カーニーは現在、気候と金融に関する国連の特使であり、先週から開かれていたグラスゴーでの気候サミットに世界の金融機関の代表者たちと参加した。そこで温暖化ガスの排出をネットゼロにするために民間の金融機関が 130 兆ドルをコミットするとぶち上げた。代表者の中には世界最大の資産運用会社のブラックロックをはじめとする有力な金融機関の CEO 達もいた。

気候問題は信用評価や物価などへの影響が大きくなり、金融機関や政策当局者にとっても深刻な問題になってきた。そこで金融機関が組織的に問題に対処する必要が生まれてきた中でのカーニーの提言だった。2050 年までに再生可能エネルギーに移行する過程での金融支援を担う。だがグリーンウォッシュ(見せかけの気候変動対策で二酸化炭素排出を隠蔽)批判されないためには具体的な工程表の提示が必要だろう。

ベイリーは先週市場を混乱させた。BOE が政策金利の引き上げを見送ったからだ。市場の多数の予想に反した決定だった。そこで英国債は買われ(イールドは低下)、他の欧州の債券も買われた。そして米国債にも波及した。価格が下落傾向だった米国債も買われ、イールドは低下した。米国債の動きが英国債など他の債券の動きに大きく影響することはあっても、その逆はそれほど多くない。

その点ではサプライズだった。その背景には、世界の市場が現在のインフレの持続性と金融政策転換のタイミングにナーバスになっていることがある。そこで債券のポジションのショートカバーが急激に行われた結果だろう。

この動きは為替にも波及した。ポンドが売られた。ポンドドルは 1.36 の後半から 200 ポイント以上下落した。その後少し戻し、直近では 1.3550 水準だ。

ベイリー総裁は 9 月にインフレ抑制のために利上げを示唆した。その後、他の政策委員たちも同様なコメントを発した。BOE の政策スタンスは、ECB(欧州中央銀行)はもとより FED(米連邦準備)よりもタカ派的な印象があったが、ここにきて利上げを見送り、インフレ率は来年にかけて上昇するが次第に低下する

との見方を示している。FED のインフレは一時的との見方に近付いてきたようだ。

その点から見るとポンドの上値は従来よりも限られてくるはずだ。